様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ５ 月 ２０ 日現在

機関番号：１０１０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2013～2014
課題番号：２５８７００１２

研究課題名（和文）胡適と日本――日本人との交流および日中交渉における胡適の役割を中心に

研究課題名（英文）HuShi And Japan-Focusing on Hu Shi's role in the exchange with Japanese and negotiations with Japan and China-

研究代表者
猪野　慧君（胡慧君）（INO, Ekun）

北海道大学・文学研究科・専門研究員

研究者番号：９０６３２２１６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　800,000円

研究成果の概要（和文）：「満州国」を巡って、当時、日本と直接交渉し、「満州国」の取消を主張するのが胡適の一貫した考えであった。しかし、日本は「満州国」の現状を絶対変えないと固執した。このような困難な状況で、胡適は「太平洋問題調査会議」という国際学術会議で日中間の様々な問題を提起し、解決方案を提議した。日中代表は会議の場や、会議前後の日中代表間でも率直に意見をぶつけ合ったことが分かった。現在の「釣魚島（日本：尖閣諸島）」を巡る日中両国の関係が、「満州国」を巡る当時の日中関係ととても似ていると思う。胡適の日中問題の改善に向ける模索は、現在にも参考になると結論を付けた。

研究成果の概要（英文）：It was Hu Shi's consistent idea to negotiate "Manchukuo" directly with Japan and insist on cancellation of "Manchukuo". But when the current state of "Manchukuo" was never changed, Japan stuck. Hu Shi raised various problems during the Japan and China by international Science Council as "The Institute of Pacific Relations" and proposed a solved casting plan by such difficult situation. I found out that a Japanese representative and a Chinese representative bumped an opinion each other gently before and behind the place by the meeting and the meeting. I think a relation in two countries with Japan and China going around "Diaoyu Dao " (Japan: Senkaku-shoto) is very akin to Japan-China relations in those days going around "Manchukuo". I think grope for improvement of Hu Shi's Japan-China relations is also helpful at present.

研究分野：中国近現代史

キーワード：胡適　日中関係　日中問題　太平洋問題調査会

１．研究開始当初の背景

胡适と日本との関わりについて、先行研究としては、石立善氏「胡适与日本--以近代中日学術交涉史为中心」（『胡適研究通讯』、胡適研究会編、2008 年第 3 期（総第 3 期）、2008 年第 4 期（総第 4 期）、2008 年 8 月、11 月）が挙げられる。石氏の研究は 1920 年から 2008 年までの日本における胡適研究を年代順に全体的に網羅した優れた目録であり、その目録を見ることによって、日本では、胡適をどのように研究してきたかについての傾向を分析することができる。しかし、それらの論文の内容についての分析がなく、胡適がどのように日本を見ていたかについて把握するには至っていない。胡適研究に関しては、現在、中国には胡適研究会という学会が存在し、学術雑誌の発刊や国際研討会を通じて、活発な学術交流が行っている。しかし、日本では従来、文学者・哲学者・思想家としての胡適については多く研究がなされてきたが、日本人との交流については、主に学者、例えば、青木正児や鈴木大拙などとの学術交流についての研究に限られる。時期としては、主に、中国の文学革命時期の胡適についての研究が際立っている。胡適は友人と『独立評論』という雑誌を創刊し、その雑誌においては、時事問題、特に日中問題について論じていた。時には、日中交渉に対する解決方案なども詳しく紹介していた。日本では、胡適のそういった政治的な思想についての研究はあまり現れていない。また、胡適は学術交流以外に、政治家や当時中国に駐在していた新聞記者および一般日本人とも交流をしていた。それら交流についての研究はほとんどなく、満州事変以降からの太平洋会議での胡適や、日中戦争期における国民使節・駐米大使としての胡適についての研究もまだ少ないのが現状である。また日本では、中国における胡適研究に関して総合的な研究はまだ現れていない。

２．研究の目的

本研究「胡適と日本――日本人との交流および日中交渉における胡適の役割を中心に」は、『胡適日記全集』、『胡適書信集』、胡適と日本人との未公開の写真、手紙および日本側の新聞、雑誌、外交資料を通じて、満州事変前後の胡適の日本人との真摯な交流と日本の近代化（文明開化）についての高い評価、一方で、日本軍国主義の侵略行為に対する憎み、という日本に対する矛盾した心理を明らかにし、満州事変後の日中交渉に対する胡適の解決案を示した資料を通じて、胡適の近代日中交渉史における役割、および日中関係における胡適交渉案の現代的な意義をより一層明らかにすることを研究目的とする。具体的には以下の段階を経て研究を進める。

３．研究の方法

方法としては、一、日本と中国における胡適研究の現状と課題を明らかにする。二、今まで公開していなかった胡適と日本人との交流（書簡、対面）の資料、日記および日本に関する論文などを整理して、日中戦争期までの胡適が見た日本像を明らかにする。また、同時期の日本が見た胡適像を明らかにする。三、胡適の講演に関するデータを充実する。四、日中戦争期および戦争終結後の胡適から見た日本像を明ら

かにする。また、日本からみた胡適像を明らかにする。以上の研究を通じて、満州事変以降に胡適が日中関係をどう打開しようとしたのかを明らかにする。

４．研究成果

2013 年 7 月に、日本語で書かれた博士論文(約 10 万字)を中国語に翻訳、修正して、浙江大学出版社より『抗日戦争時期的胡適――其戦争観的変化及在美国的講演活動』のタイトルで出版した。

2014 年 2 月 13 日、胡適と日本との交流について、基盤研究（B)「北東アジアにおける帝国のプレゼンスと地域社会」研究会において、「胡適と日本－日本人との交流および日中交渉における胡適の役割を中心に－」を題に、発表しました。

2014 年 9 月、胡適研究者である宋広波著「日本の侵略に対し胡適が応じた歩むべき道」を翻訳し、『中国哲学』第 41・第 42 合併号（2014 年 9 月）に掲載した。

「満州国」や満州における全体（土地政策、移民問題）の状況について、研究の協力者として、報告書の作成、翻訳作業を行いました。①「阿城・八紘開拓団の日本人残留帰国者」というタイトルの報告書を、お茶の水書房より出版した『日中両国から見た「満州開拓」体験・記憶・証言』(2014 年 2 月 20 日出版）という本に掲載された。同書に翻訳、掲載された他の論文は②朱宇・だ志剛著「中日共同研究における日本開拓移民問題に関する思考について」③辛培林著「日本北海道から中国東北へのかつての移民と二つの開拓団の状況に関する日本の学者との共同調査研究報告書」④高暁燕著「日本の移民政策がもたらした災難－－日本「残留婦人」についての調査」⑤杜頴著「ハルビン市日本残留孤児養父母の生活実態調査研究」。⑥孫継武著「日本の中国東北に対する移民の調査と研究」⑦李茂傑著「傀儡満州国「新京」特別市周辺の日本開拓団」⑧鄭敏著「占領時期の中国東北における農業経済の植民地化」⑨孫とう著「満鉄と日本の中国東北への移民」を翻訳。

2014 年 8 月 13 日、日中問題、特に「満州国」を巡って、胡適と日本人との交流、交渉の状況を、科研、基盤研究（B)「北東アジアにおける帝国のプレゼンスと地域社会」研究会において、「日中関係を改善するための模索－胡適の日記を中心に－」を題に発表した。

胡適と日本人との交流、交渉の状況、および「九・一八（満州事変)」前後における胡適が日中関係をどう改善しようとしたかについて日記などを通じて確認した。

胡適は、太平洋問題調査会の中国支部（1925 年～1950 年)のメンバーとして日中問題を解決する方法を試みた。

「満州国」を巡って、当時、日本と直接交渉して、「満州国」の取消を主張するのが胡適の一貫した考えであった。しかし、日本は「満州国」の現状を絶対変えないと固執した。このような困難な状況で、胡適は「太平洋問題調査会議」という国際学術会議で日中間の様々な問題を提起し、そして、解決方案を提議した。日中代表は会議の場や、会議前後の日中代表間でも率直に意見をぶつけ合ったことが分かった。

現在の「釣魚島（日本：尖閣諸島)」を巡る日中両国の関係が、「満州国」を巡る当時の日中関係ととても似ていると思う。当時は、「太平洋問題調査会議」という国際的な学術研究組織あって、意見を交換できる場はあったが、しかし、現在は、「釣魚島（日本:尖閣諸島)」を巡って、そのような民間、あるいは半民半官の組織がまだないのが現状である。また、東シナ海、南シナ海における島々に関する関係各国間の紛争も絶えない。これらの問題を解決するには、やは

り各国の意見交換できる場が必要だと思う。その方式としては、中国、日本、フィリッピン、ベトナムなどの関係諸国の学者、財界、産業界の代表を選出して、定期的に会議を行う。会議では、歴史、過去を検討し、現状、そして未来をどのようにすればよいか提案して、自国の政府に提言するようにする。当然、難しい問題も多々あるので、すぐに結果を出せなくてもよい。胡適が、「政府の寿命は短いが、我々学会の生命はどの政府よりもずっと長いはず」というように、政府の寿命は短いので、そのときの政府間での解決ができなくてもよいと思う。会議を永続的に開かれれば、政治の解決につながるかもしれないと愚見する。胡適の日中問題の改善に向ける模索は、現在にも参考になると結論を付けた。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 10 件）
査読あり：

1胡慧君訳、宋広波著「日本の侵略に対し胡適が応じた歩むべき道」(『中国哲学』北海道大学大学院文学研究科中国文化論研究室、第 41・42 合併号、p.79-p.93、2014 年 9 月）

2胡慧君「阿城・八紘開拓団、寧安の日本人残留帰国者」（寺林伸明・白木沢旭児・劉含発編著、『日中両国から見た「満洲開拓」：体験・記憶・証言』、御茶の水書房、p.379-p.390、2014 年 2 月）

3胡慧君訳、辛培林 著「日本北海道から中国東北へのかつての移民と二つの開拓団の情況に関する日本の学者との共同調査研究報告書」（御茶の水書房、p.187-p.196、2014 年 2 月）

4胡慧君訳、朱宇, 笪志剛 著「中日共同研究における日本開拓移民問題に関する思考について」（御茶の水書房、p.173-p.185、2014 年 2 月）

5胡慧君訳、高暁燕 著「日本の移民政策がもたらした災難」（御茶の水書房、p.197-p.209、2014 年 2 月）

6胡慧君訳、杜顥 著「ハルビン市日本残留孤児養父母の生活実態調査研究」（御茶の水書房、p.211-p.227、2014 年 2 月

7胡慧君訳、孫継武 著「日本の中国東北に対する移民の調査と研究」（御茶の水書房、p.229-p.241、2014 年 2 月）

8胡慧君訳、李茂杰 著「傀儡満洲国「新京」特別市周辺の日本開拓団」（御茶の水書房、p.243-p.251、2014 年 2 月）

9胡慧君訳、鄭敏 著「占領時期の中国東北における農業経済の植民地化」（御茶の水書房、p.253-p.267、2014 年 2 月）

10 胡慧君訳、孫彤 著「満鉄と日本の中国東北への移民」（御茶の水書房、p.269-p.278、2014 年 2 月）

〔学会発表〕（計 2 件）

1胡慧君「胡適と日本－日本人との交流および日中交渉における胡適の役割を中心に－」（基盤研究（B)「北東アジアにおける帝国のプレゼンスと地域社会」研究会、北海道大学（北海道、札幌市)、2014 年 2 月 13 日）

2 胡慧君「日中関係を改善するための模索－胡適の日記を中心に－」（基盤研究（B)「北東アジアにおける帝国のプレゼンスと地域社会」研究会、北海道大学（北

海道、札幌市)、2014 年 8 月 13 日)

〔図書〕(計 1 件)
1 胡慧君『抗日战争时期的胡适—其战争观的变化及在美国的演讲活动』(浙江大学出版社、総 144 ページ、2013 年 7 月)

〔産業財産権〕
○出願状況(計 0 件)

６．研究組織
(1)研究代表者
猪野　慧君(胡慧君)(INO,Ekun)(Ko,Ekun)
北海道大学・大学院文学研究科・専門研究員
研究者番号:90632216